



競輪の補助事業

この事業は、競輪の補助により実施しています。
<https://hojo.keirin-autorace.or.jp/>

< オリンピック・ムーブメント事業 >

JOCオリンピック教室

実施報告書

東京都 北区立堀船中学校



公益財団法人 日本オリンピック委員会

「オリンピック教室」の実施にあたって

平成21年4月の学習指導要領から、中学校「保健体育 体育分野」及び高等学校「科目体育」における「体育理論」の領域で、文化としてのスポーツやオリンピック・ムーブメントの意義を学ぶことが示されました。中学校3年生では、「オリンピックや他の国際的なスポーツ大会などは、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしている」現状を通して、オリンピックの意義を学習することになっています。そこで、JOCでは、中学校3年生の体育理論の学習に先がけ、その内容を事前に啓発する目的で中学校2年生を対象に、平成23年度から授業形式で行う「オリンピック教室」を実施してきました。

近代オリンピックの創始者ピエール・ド・クーベルタンは、人間本来の資質を高めるために、スポーツと文化と教育の側面を持つオリンピックの価値を広めることが相応しいと考え、オリンピック・ムーブメントを推進してきました。JOCもこの価値を若い世代に語り継ぐことは、極めて重要で大切な活動と考えております。日本代表としてオリンピックに出場した選手（オリンピック）は、その栄誉を自覚し、競技面だけでなく社会生活の上でも、模範となる行動が求められますが、オリンピックがその価値を直接生徒に伝えることで、日頃の授業では味わうことの出来ない感動が生まれることが期待されます。

「オリンピック教室」の授業では、教師役のオリンピックが、オリンピック大会出場に至るまで、あるいは、実際にオリンピック大会に出場して得た貴重な経験等を通して、「エクセレンス」、「フレンドシップ」、「リスペクト」、「努力から得られる喜び」、「フェアプレー」、「他者への敬意」といったオリンピックの価値（バリュー）等を伝えます。同時に、この価値がオリンピックに出場した選手だけのものではなく、多くの人々が共有し日常生活にも活かすことのできるものであること、さらに、こうした考え方があるからこそオリンピックに価値があることを生徒自身が学ぶこともねらいとしております。

平成29年3月公示の新学習指導要領では、新しい時代に求められる資質や能力を子供たちに育むために、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業の工夫や改善が求められています。「オリンピック教室」でのふれあいの中での学びが、教科の枠を越え、これからの社会や人生に活かせる資質や能力を育む一助になることを期待しております。また、この授業を通して、生徒の皆さんが、運動やスポーツが好きになり、生涯にわたり豊かなスポーツライフの実現につながることも願っています。

令和5年4月

公益財団法人 日本オリンピック委員会

- 目的： オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）が教師役となり、
オリンピック自身の様々な経験を通して
「オリンピズム」や「オリンピックの価値」等を伝えると同時に、
この価値はオリンピックだけのものではなく、多くの人々が共有し、
日常生活にも活かすことの出来るものであることを授業を通して学習してもらう。
- 事業名： JOCオリンピック教室
- 主催： 公益財団法人日本オリンピック委員会(JOC)
- 後援： スポーツ庁
- 協力： 公益財団法人JKA、開催地自治体及び同教育委員会
- 対象： 中学2年生
- 講師： オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）※派遣オリンピックはJOCが選定
- 期間： 2023年4月～2024年3月 ※原則、平日開催
- 実施校数： 80校程度
- 実施方法： クラス単位を基本とし、2コマで1セットの授業

1コマ目 運動の時間 / 50分

身体を動かしながら生徒との距離を縮め、
チームワーク、フェアプレー、身体を動かす
ことの楽しさ等を感じてもらいます。



2コマ目 座学の時間 / 50分

競技者人生を振り返り、自身が感じた
オリンピックの価値を生徒に伝え、
オリンピックをより身近に感じてもらいます。



1コマ目

運動の時間 / 50分

オリンピックの専門競技の技術指導(=スポーツ教室)ではなく、
運動が苦手な生徒も参加できるように工夫されたもの

挨拶(5分)

準備体操(10分)

主運動(30分)

まとめ(5分)



自己紹介
学習内容の確認



準備体操



主運動
(作戦タイム等を設け、
生徒が考える機会を作る)



運動の時間のまとめ

2コマ目

座学の時間 / 50分

国際オリンピック委員会(IOC)が推進する「オリンピックの価値」等を、オリンピックがオリンピック競技大会出場に至るまで、あるいは実際にオリンピック競技大会に出場した経験等を通して、分かり易く伝えると同時に、生徒自身が自分ごととして捉え、今後に活かせるような学習内容

挨拶・自己紹介(10分)

オリンピックの価値を伝える(10分)

グループワーク(20分)

まとめ(10分)



学習内容の確認



写真・映像等を使用
した自己紹介



オリンピック自身の経験
に基づく「オリンピック
の価値」等を伝える



個人またはグループ
ワークで話し合った内
容を発表



全体のまとめ
記念撮影(クラス写真)

※時間は目安です。
※内容はオリンピックによって変動する場合があります。

●時間割について

- ・1クラスにつき、運動の時間+座学の時間の順に、2時間連続で実施します。
- ・1コマ目の運動の時間は体育館で、2コマ目の座学の時間は当該クラスの教室で行います。
- ・原則1クラスの場合は3-4時限目、2クラスの場合は3-6時限目、3クラスの場合は1-6時限目の調整となります。
- ・1日に実施できるクラス数は最大3クラスまでです。4クラス以上実施する場合は2日間以上での調整となります。
- ・同じ時間に複数クラスを実施することはできません。

■オリンピック：荻原次晴先生（スキー／ノルディック複合）【出場オリンピック／長野1998冬季大会】

■期 日：2023年4月21日（金）

■ク ラ ス：2年1組／運動の時間

○自己紹介～授業の目的確認～準備体操



・長野1998冬季大会にスキー／ノルディック複合で出場したと自己紹介。近年の大会で活躍した選手について生徒に問い掛け、柔道、卓球、スケート／フィギュアスケートの選手の名前が挙がる。オリンピックは遠い存在に感じるかもしれないが、自身の経験を通して、出場すること以外にも意味があることを伝えたい。運動の時間では、スキーの滑る動きを取り入れた運動を行うので楽しんでほしい。準備運動は、ジョギング後、スキップとステップを行い、体育委員の号令で準備体操を実施。

○主運動等



・主運動は、速さを競う「滑走リレー」を実施(全2回)。班毎に分かれ、片足にモップシューズを履き、滑らせながら折り返し地点のコーンを回って戻り、次走者に継ぐ。最終走者が完走したら、全員で手を挙げて班がゴールしたことを知らせる。2回目は、折り返し地点で反対の足にモップシューズを履き替えるルールに変更。
 ・主運動の2つ目は、「人間知恵の輪」を実施(全1回)。全員で手を繋いで大きな輪を作り、内側を向いた状態から手を繋いだまま外側に向くことができたら成功。



・運動の時間を振り返り、先生が授業冒頭で伝えた、「ルールを守る」、「仲間を応援する」、「ライバルと競い、ライバルを応援する」の3つの約束事を守りながら一生懸命取り組み、楽しんでくれたことに感謝したい。オリンピックが皆に伝えようとしているオリンピックバリューには、「エクセレンス」「フレンドシップ」「リスペクト」の3つがあると紹介。座学の時間では、皆の日常とオリンピックバリューが、どのように繋がっているのか、一緒に考えたいと伝え、授業終了。

■オリンピック：荻原次晴先生（スキー／ノルディック複合）【出場オリンピック／長野1998冬季大会】

■期 日：2023年4月21日（金）

■クラス：2年1組／座学の時間

○自己紹介～授業の目的確認～オリンピックの価値を伝える



●競技映像を見ながら自己紹介。双子の兄がオリンピックで金メダルを獲得し、誰もが知るような有名な人になった。その兄の影響を受け、同じ舞台に立ちたいと考える様になり、大会出場を目指すことを決断した。その道は決して簡単なものではなかったが、諦めずに挑戦し続けた結果、兄弟で長野1998冬季大会への出場を果たすことができた。オリンピックバリューは、皆が仲間や家族に尊敬や感謝を感じる場面や、勉強や部活動での努力の中にも存在していて、普段から心で感じているはずだと話す。

○個人ワーク～グループワーク等



発問：普段の日常生活や学校生活での出来事を感じることを、オリンピックバリューに当てはめて考えてみよう。

発表：エクセレンス：「部活動で自分を高める」「運動会や文化祭を達成する」「一試合でも多く勝つために努力する」等
フレンドシップ：「運動会や部活動で仲間と協力する」「学校生活でお互いに助け合う」「班行動の際は協力する」等
リスペクト：「先輩の知識を尊敬」「給食を作る人に感謝」「親、先生、地域の人に感謝」「ライバルに感謝」等



●当時、自分の境遇を嫌に思っていたが、大会後に改めて振り返ると、自分が居た環境や周りの人のおかげで心に火をつけることができたのであり、何事も1人では達成できないということが分かった。今日の授業から、皆の日常にも存在するオリンピックバリューに気づくことができたと思うので、今後の学校生活でも積極的に活かしてほしい。パリ2024大会を見る時には、今日のことを思い出し、一生懸命頑張る選手たちやオリンピックが、世界に伝えようとしていることを感じてほしいと伝え、授業終了。

■オリンピック：荻原次晴先生（スキー／ノルディック複合）【出場オリンピック／長野1998冬季大会】

■期 日：2023年4月21日（金）

■クラス：2年2組／運動の時間

○自己紹介～授業の目的確認～準備体操



・長野1998冬季大会出場時の競技写真を見ながら、スキー／ノルディック複合は、スキージャンプとクロスカントリーの2種目行う競技だと解説。冬競技に馴染みが少ないかもしれないが、運動の時間では、滑ることの楽しさを体験してもらいたい。皆にもオリンピックを身近に感じて貰えるように、先生がオリンピックで感じたことや学んだことを伝えたいと、授業の目的を確認。準備運動は、ジョギングとスキップを行い、体育委員の号令で準備体操を実施。

○主運動等



・主運動は、速さを競う「滑走リレー」を実施(全2回)。班毎に分かれ、片足にモップシューズを履き、滑らせながら折り返し地点のコーンを回って戻り、次走者に継ぐ。最終走者が完走したら、全員で手を挙げて班がゴールしたことを知らせる。2回目は、折り返し地点で反対の足にモップシューズを履き替えるルールに変更。
 ・主運動の2つ目は、「人間知恵の輪」を実施(全1回)。全員で手を繋いで大きな輪を作り、内側を向いた状態から手を繋いだまま外側に向くことができれば成功。



・運動の時間を振り返り、滑る動きは難しかったかもしれないが、体の中で眠っていた感覚に刺激を与えることができたと思う。今後も色々な競技に挑戦してほしい。世界を決める大会は沢山あるが、オリンピックには、競争することだけではなく、平和や友情の考えを世界中と共有することができるオリンピックバリューがある。座学の時間では、皆も心の中に持っているオリンピックバリューの「エクセレンス」「フレンドシップ」「リスペクト」について、一緒に考えていきたいと伝え、授業終了。

■オリンピック：荻原次晴先生（スキー／ノルディック複合）【出場オリンピック／長野1998冬季大会】

■期 日：2023年4月21日（金）

■ク ラ ス：2年2組／座学の時間

○自己紹介～授業の目的確認～オリンピックの価値を伝える



・スキー／ノルディック複合で長野1998冬季大会に出場したと自己紹介。オリンピックで金メダルを獲得した双子の兄と間違われる日々が嫌で、生まれてきた環境や周囲の人を責めるようになっていた。兄と同じ舞台で自分の存在を証明すると決断し、努力を続け、大会出場を果たした。自分を磨き、支えてくれた家族と仲間へ感謝の心を持つという経験の中に、オリンピックバリューを発見した。オリンピックバリューは、選手だけではなく、皆も日常の中で、重なる感情や瞬間を経験していると話す。

○グループワーク等



発問：普段の日常生活や学校生活での出来事で感じることを、オリンピックバリューに当てはめて考えてみよう。

発表：エクセレンス：「勉強や部活動を頑張る」「最後までやり遂げる」「工夫して練習する」等

フレンドシップ：「励まし助け合う」「ミスをカバーする」「チームプレー」「行事や班活動で協力する」等

リスペクト：「家族、クラスメイトを尊敬する」「先生、先輩を尊敬する」「医者、スポーツ選手を尊敬する」等



・座学の時間を振り返り、皆が心の中に感じていたオリンピックバリューを共有してくれて嬉しい。今後の人生の中で、試練や困難を頑張って乗り越えた後に、改めて感じることや、発見できるオリンピックバリューもあると思う。どのような人が強い選手なのかとよく聞かれるが、「エクセレンス」「フレンドシップ」「リスペクト」の3つの価値を心の中に持っている選手であると話す。パリ2024大会を観戦するときは、今日の授業を思い出しながら、頑張る選手たちを応援してほしいと伝え、授業終了。

■集合写真

・2年1組



・2年2組



■記念品贈呈

・2年1組



・2年2組



■修了証贈呈

